

RIX リックス株式会社

第79期 中間報告書

2024年4月1日から2024年9月30日まで

世界中のものづくりの 課題解決屋になる

リックスグループは、
“販売・技術・製造・サービスの高度な融合”と
パートナーとの“協創”により、
世界の産業界の課題解決のための
ソリューションを提供します。



証券コード：7525

世界中のものづくりとネットワークを繋ぐ・創る

「メーカー商社」として
4つの機能を融合



「メーカー商社」としての強み・優位性



技術力がある

(自社工場と研究開発施設保有)



取扱品数が多い

(取引先約2,600社 商品数約3,000種)



様々な顧客のニーズに応える
高い課題解決力

当社のみが取扱い・販売できる「**オリジナル品**」

当社商材区分と「オリジナル品」

「オリジナル品」とは、自社製品・グループ会社製品・専売仕入品など、当社のみが取り扱いでき販売できる品群です。

01 自社製品

自社工場でつくる製品

例：ロータリージョイントなど

02 グループ会社製品

当社グループ会社がつくる製品

例：バルブなど

03 専売仕入品

当社が独占販売権を持つ仕入品

例：海外製インパータなど

04 一般仕入品

「オリジナル品」

なぜ「オリジナル品」を重要視するのか



優位性・独自性が高い



顧客課題の解決に繋げやすい



メーカー機能強化で海外に打って出やすい



利益率が高い

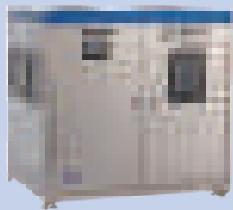
「メーカー商社」として

競争力・優位性・独自性があることで
利益率が高く、海外にも展開可能

「オリジナル品」の一例のご紹介



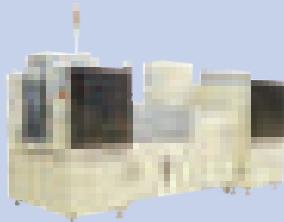
自社製品ARASEN
(EV・HEV製造工程用)



自社製品D-RAT
(EV・HEV製造工程用)



自社製品エネミックス
(ポータブルハイブリッド電源)



自社製品洗浄装置



専売仕出品
インバータ(海外製)



自社製品
ロータリージョイント



グループ会社製品
加硫用バルブ

国内外における 幅広い産業界の課題を解決



高い専門性で顧客密着



文字通り“顧客密着” 顧客工場近くに営業所

- 国内37か所、海外7か国12か所に拠点を展開
- いずれも顧客工場の近くに展開し、素早く対応



作業着の汚れは勲章。現場に深く入り込む

- 営業担当は作業着を着て顧客工場に入り込む
- 生の現場を見ることで課題や情報を収集
- 時には顧客と同じように作業着を汚すほど現場密着



115年で紡いだ顧客との信頼関係

- 創業115年以上で培った顧客との関係性で、ほかの商社では知り得ない情報を先回りして獲得
- 課題はチャンス。解決することでさらなる信頼関係を構築



ごあいさつ

株主の皆様には、平素よりご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。

当社第79期中間期(2024年4月1日から2024年9月30日まで)における業績のとりまとめを終えましたので、ここに第79期中間報告書をお届けいたします。

また、令和6年9月に発生した能登半島豪雨によって被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。被災地の一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

代表取締役 社長執行役員 **安井 卓**

「協創型メーカー商社」として社内外連携を強化し課題解決力を高め、新たなオリジナル品の供給やビジネス領域の拡大に取り組んでまいります。

Q 当中間期の営業概況について教えてください。

A 前年同期比で、売上高は9.9%増の260億9百万円、営業利益は3.5%減の16億96百万円、経常利益は6.8%減の18億93百万円、親会社株主に帰属する中間純利益は14.5%減の12億13百万円となりました。

当中間期の世界経済は、世界的な高インフレに落ち着きが見られました。米国では個人消費において好調な兆しが見られており、中国では輸出関連では底堅く推移しているものの不動産関連が低調である等、地域及び需要分野によって景況感に差が見られました。また、日本経済は、訪日外国人数が継続して過去最高を記録しており、サービス産業は底堅く推移しました。製造業については、この期間に発生した大型台風の影響を受けた形となりましたが、半導体関連を中心に設備投資への機運の高まりがみられました。

このような経済環境の中、当社グループでは中期3ヵ年計画「GP2026」に基づく施策に取り組んだ結果、当中間連結会計期間の連結業績は、売上高260億9百万円(前年同期比9.9%増)、営業利益16億96百万円(同3.5%減)、経常利益18億93百万円(同6.8%減)、親会社株主に帰属する中間純利益12億13百万円(同14.5%減)となりました。減益の要因としては、人件費および教育

費等の人への投資に加え、業務の効率化を目的としたIT投資によって販売費及び一般管理費が増加したことが挙げられます。

Q 当中間期のセグメント別事業の概況について教えてください。

A 8セグメント中、6セグメントで増収となりました。

鉄鋼業界向けでは、海外市場の更なる開拓や生産比例品のみならず、整備部門への営業活動にも注力した結果、国内圧延工程向け設備部品の販売や設備トラブルに伴うレンタル品の受注、当社オリジナル品であるベアリング再生事業が好調であったこと等により、売上が増加しました。この結果、鉄鋼業界向け全体としての売上高は72億56百万円(前年同期比5.1%増)、セグメント利益は8億92百万円(前年同期比1.1%増)となりました。

自動車業界向けでは、CASE市場で注目されている電池やモーター分野への営業・提案活動に注力した結果、検査工程向け試験設備類の販売や、電動ユニット向け機械設備の販売、海外の電池製造工程向け設備機器の販売等により、売上が増加しました。この結果、自動車業界向け全体としての売上高は55億89百万円(前年同期比22.1%増)、セグメント利益は5億72百万円(前年同

期比1.9%増)となりました。

電子・半導体業界向けでは、修理・再生ビジネスに加え、現場・設備・保全部門に対して営業活動に注力した結果、半導体製造装置周辺機器の修理再生案件が増加したことや、半導体エッチング装置向け部材の販売が継続して増加したこと等により、売上は増加しましたが、利益率の高い当社オリジナル品の売上が伸びず、セグメント利益は減少しました。この結果、電子・半導体業界向け全体としての売上高は34億78百万円(前年同期比2.9%増)、セグメント利益は3億60百万円(前年同期比2.4%減)となりました。

ゴム・タイヤ業界向けでは、開発部門への営業活動に加え、設備投資に関する営業活動に注力した結果、原動設備の更新案件や部品メーカー向けの装置案件等により売上を確保しましたが、前期からの落ち込みを埋めるまでには至りませんでした。この結果、ゴム・タイヤ業界向け全体としての売上高は18億5百万円(前年同期比5.9%減)、セグメント利益は1億90百万円(前年同期比19.3%減)となりました。

工作機械業界向けでは、工作機械の5軸化・複合化の要求に対応する用途開発・機器の営業に加え、付帯設備の拡販活動に注力した結果、機械加工工程向けのバッテリー再生案件等により売上を確保しましたが、低迷する工作機械業界の影響を受け、当社オリジナル品であるロータリージョイントの売上が減少しました。この結果、工作機械業界向け全体としての売上高は11億55百万円(前年同期比15.1%減)、セグメント利益は2億36百万円(前年同期比26.0%減)となりました。

高機能材業界向けでは、医薬・化粧品分野の開拓に加え、修理・再生ビジネスにも注力した結果、設備トラブルに伴うレンタル案件が継続していることや、保全部門向けポンプ類の販売、設備機械の再生案件等により、売上は増加しました。この結果、高機能材業界向け全体としての売上高は11億33百万円(前年同期比12.7%増)、セグメント利益は1億3百万円(前年同期比2.1%減)となりました。

環境業界向けでは、近年重要視されている環境及びエネルギー産業、水処理関連事業への深耕に注力した結果、水処理メーカー及び電力プラント向けフィルター類の販売や水処理施設における能力増強案件が継続していること等により、売上が増加しました。この結果、環境業界向け全体としての売上高は16億61百万円(前年同期比69.3%増)、セグメント利益は1億50百万円(前年同期比72.9%増)となりました。

紙パルプ業界向けでは、バイオマス素材であるCNF分野やエネルギー・ケミカル素材分野、既存設備のメンテナンス事業への

深耕に注力した結果、バイオエタノール関連の設備機器の販売や当社グループ会社のオリジナル品である空調関連設備機器の販売等により、売上が増加しました。この結果、紙パルプ業界向け全体としての売上高は4億71百万円(前年同期比6.4%増)、セグメント利益は52百万円(前年同期比13.7%増)となりました。

Q 下半期の展望などについてお聞かせください。

A 2025年3月期の通期連結業績予想を上方修正いたしました。

当中間連結会計期間においては、主に鉄鋼、自動車及び電子・半導体セグメントで売上、セグメント利益が順調に推移しています。第3四半期以後も引き続き同セグメントが業績を後押しする見通しであることや、環境セグメントが前年同期比大幅増で推移していることなどから通期見通しを上方修正しました。

2025年3月期通期では、連結売上高520億円(増加額10億円・増加率2.0%)、営業利益34億500百万円(同1億500百万円・同4.5%)、経常利益36億600百万円(同2億600百万円・同7.6%増)、親会社株主に帰属する当期純利益24億400百万円(同1億400百万円・同6.1%)の達成を目指してまいります。(上掲カッコ内数字はいずれも当初計画比)

Q 株主還元状況など株主様へのメッセージをお願いします。

A 期末普通配当予想を増配修正いたしました。

株主様への利益還元について当社では、連結配当性向40%を目標とし、経営成績に応じた配当を行うことを基本方針としております。

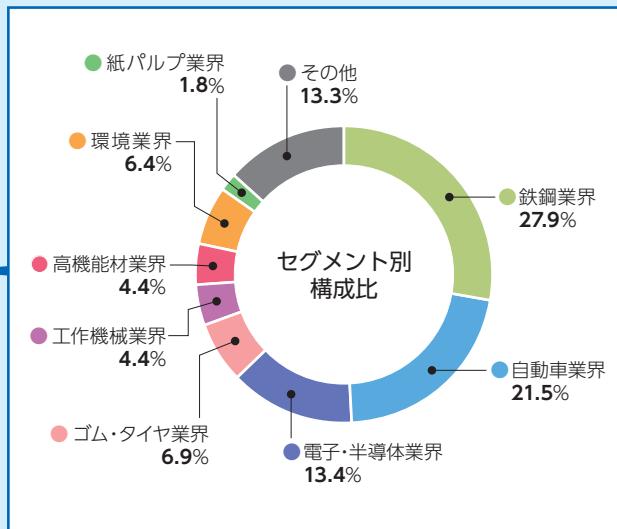
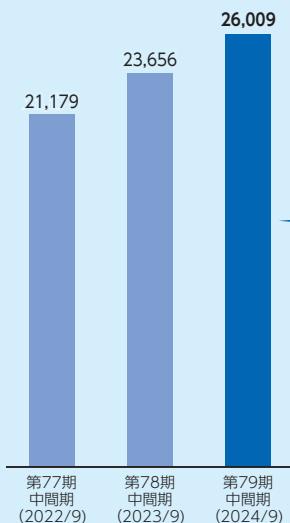
このような方針の下、当中間期末では前回予想と同額となる、1株当たり53円の中間配当を実施させていただきました。また、このたび通期業績予想を上方修正したことに伴い、期末普通配当予定は前回予想よりも7円増額し、1株当たり67円といたしました。これにより年間配当金は、1株当たり120円となる見込みです。

株主の皆様には、当社グループの企業価値をご理解いただくとともに、今後の発展にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

連結財務ハイライト

売上高

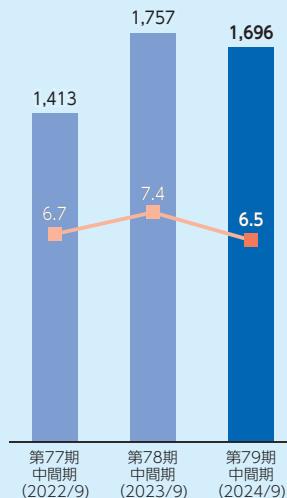
(単位: 百万円)



営業利益

売上高営業利益率

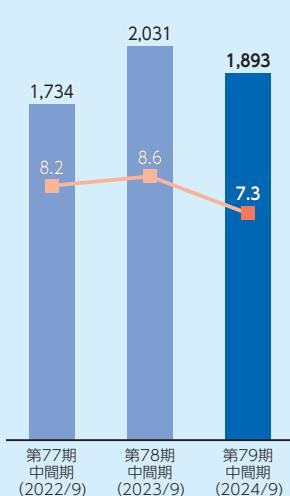
(単位: 百万円/%)



経常利益

売上高経常利益率

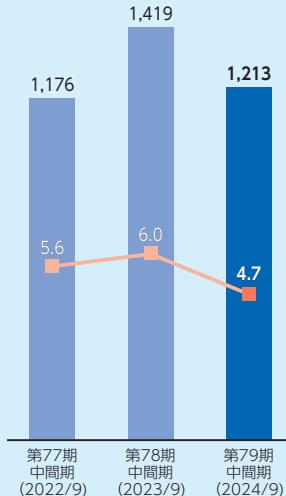
(単位: 百万円/%)



親会社株主に帰属する中間純利益

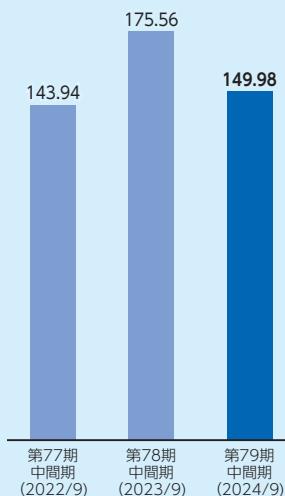
売上高中間純利益率

(単位: 百万円/%)



1株当たり中間純利益

(単位: 円)



総資産 純資産

自己資本比率

(単位: 百万円/%)



中期経営計画「GP2026」

(RIX Growth Plan)

当社グループは、2024年度より中期3ヵ年計画「GP2026」を下記の通り策定しました。社会課題の解決と経営目標の達成に向かって全社一丸となって取り組んでまいります。

当社グループの
あるべき姿

世界中のものづくりの課題解決屋になる

当社グループの
ビジョン

リックグループは、“販売・技術・製造・サービスの高度な融合”とパートナーとの“協創”により、世界の産業界の課題解決のためのソリューションを提供します。

定量目標
2026年度

連結売上高 **600億円**

連結営業利益 **45億円**

連結経常利益 **47億円**

「GP2026」を達成するための4つの軸

01 ビジネス領域の拡大(連結売上高600億円)

- 現状の業界・業種(525億円)
- 成長分野(75億円)
- 海外(600億円のうち96億円)

02 収益性の向上

- 営業利益率7.5%以上・ROE11%以上(事業活動の効率化)
- オリジナル品比率40%以上(新製品・新商品開発)

03 人材・組織の強化(全体最適・スピードアップ)

- ライフ・ワーク・バランスの充実
- RIXing Actionを実践できる人材の育成・定着
- 協創センターをフル活用する仕組みづくり
- 新システムへのスピーディーな移行

04 ステークホルダーリレーションズの充実

- CSV-Creating Shared Value ビジネスを通じた社会貢献の実行
- ステークホルダーとのコミュニケーション活性化
- ガバナンス体制の強化に向けた取り組みの推進

■ 前・中期3ヵ年計画「GP2023」から新規で追加・変更した箇所

01

陸上養殖設備 開発・実証実験の進捗

現在取り組み中の「陸上養殖設備の開発・実証実験」について、活動の進捗状況について共有致します。



開発目的

長年、流体関連機器に携わり培った知見を活かし、食料不足や環境などに関する社会課題の解決に貢献するため

優位性・強み

魚にとって有害なアンモニアを微生物分解し、脱窒する技術

- 日常的な水替えが必要なく、年1回の換水でOK
- 人工塩水のコスト削減や、排水を限りなく少なくできる

目標

陸上養殖設備の市場シェアアップを目指します。2024年7月に開催された「アкваポニクス陸上養殖展」にもブース出展し、様々なご要望を頂いている段階です。

● 下記種類の育成を確認

マダイ

マサバ

バナメイエビ

トラフグ

サーモン、カワハギ、クエなどの養殖も推奨

02

動画「リックス営業担当の1日に密着」を公開しました

株主・投資家の皆様や学生からご意見を頂き、「リックス営業担当の1日に密着」した動画を公開しました。

ご覧頂くことで、当社へのご理解が進む一助になりますと幸いです。

※右記 QRコードよりご視聴頂けます。



動画はこちらから



株主様
向け

初開催 リックス協創センター&自社製品工場 (福岡事業所)

見学会のご案内

2024年11月に稼働開始した当社の研究・開発施設「リックス協創センター」と、自社製品工場の見学会を株主様向けに開催いたします。施設見学、ビジョン説明、質疑応答などを通して、当社へのご理解を深めて頂くきっかけになればと考えております。ご応募をお待ちしております。



リックス協創センターについて

当社として過去最大の投資額をかけ、2024年11月に開業した研究・開発センター。既存製品にとらわれない新製品・商品・サービスを生み出すため、各企業・機関・大学などと協力して創り上げる「協創」を推進している。



自社製品工場 (福岡事業所) について

自社製品の「ロータリージョイント」や「洗浄装置」などを製造する工場。約140人が勤務し、自社製品の設計から組立までを行っている。

開催日時・
お申込み方法

見学会開催日 2025年3月13日(木)午後 ※時間など詳細は当選者に別途ご連絡します。

内容 施設見学、質疑応答(代表取締役社長執行役員 安井卓含む)

お申込み方法 右記QRコードよりお申込み下さい
※応募者多数の場合抽選となります
※お申込み締切:2024年12月31日(火)午後5時まで

お申込みはこちらから



見学会に関するお問い合わせ IR・広報グループ メール: irkoho@rix.co.jp

リックグループネットワーク (2024年11月1日現在)

海外ネットワーク



国内ネットワーク

本社	★管理本部、企画本部、北中南米営業統括部、アジア・ヨーロッパ営業統括部、海外営業部
営業本部	■グローバル営業本部
営業所	●自動車事業部 豊田営業所、西尾営業所、小倉営業所
	●鉄鋼事業部 鹿嶋営業所、千葉営業所、君津営業所、東海営業所、和歌山営業所
	●東部営業部 苫小牧営業所、北上営業所、仙台営業所、宇都宮営業所、埼玉営業所、東京営業所、西東京営業所、横浜営業所、平塚営業所、富士営業所、名古屋営業所、北陸営業所、豊橋営業所、四日市営業所
	●西部営業部 滋賀営業所、大阪営業所、加古川営業所、姫路営業所、倉敷営業所、広島営業所、福山営業所、周南営業所、四国営業所、北九州営業所、福岡営業所、長崎営業所、大分営業所、熊本営業所、鹿児島営業所
工場	■福岡事業所 生産本部
研究・開発所	▲技術開発センター ▲中部テクニカルセンター ▲横浜事業所 NB開発本部 ▲リックス協創センター



会社概要

商号	リックス株式会社
英文社名	RIX CORPORATION
創業	明治40年(1907年)10月
設立	昭和39年(1964年)5月
資本金	8億2,790万円
従業員	487名(連結761名)
主要な事業内容	流体応用機器・設置製造販売/ 精密自動・計測機器販売/製鋼副資材等販売

取締役及び監査等委員である取締役

代表取締役社長執行役員	安井 卓	取締役(常勤監査等委員)	田原 俊二
代表取締役副社長執行役員	柿森 英明	取締役(監査等委員)	植松 功(*)
取締役専務執行役員	川久保 昇	取締役(監査等委員)	大山 一浩(*)
取締役常務執行役員	芹川 康介	取締役(監査等委員)	馬場 貞仁(*)
取締役常務執行役員	大沢 賢司		

(*)社外取締役

株式の状況

- 発行可能株式総数 27,600,000株
- 発行済株式の総数 8,640,000株
- 株主数 7,884名
- 大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
NOK株式会社	1,167	14.40
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	618	7.63
リックス取引先持株会	346	4.27
安井玄一郎	346	4.27
リックス従業員持株会	247	3.05
株式会社西日本シティ銀行	191	2.36
園田和佳子	171	2.11
安井龍之助	168	2.08
山田貴広	162	2.01
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	156	1.93

注) 1. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。
2. 当社は自己株式530千株を保有しております。

株式分布状況

所有者別株式分布状況

個人・その他	51.84%
自己株式	6.14%
金融商品取引業者	1.08%
金融機関	16.35%
その他の法人	21.93%
外国法人等	2.66%



所有株数別株式分布状況

10単元未満	10.77%
10単元以上	5.22%
50単元以上	4.35%
100単元以上	16.03%
500単元以上	14.71%
1,000単元以上	22.10%
5,000単元以上	26.82%



1株当たり配当金の推移

(単位:円)



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

配当金受領 期末配当金 3月31日
株主確定日 中間配当金 9月30日

株主名簿管理人
及び特別口座の
口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

株式に関する各種手続の申込先について

- ・住所変更、単元未満株式の買取請求、買増請求、配当金受取方法の指定等は、お取引口座のある証券会社に申し出てください。
ただし、特別口座に記録された株式に係る各種手続につきましては、三菱UFJ信託銀行株式会社に申し出てください。
- ・未払配当金のお支払いにつきましては、三菱UFJ信託銀行株式会社に申し出てください。

同連絡先 東京都府中市日鋼町1-1
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
☎ 0120-232-711 (通話料無料)

公告方法 電子公告により行います。
公告掲載
URL <https://www.rix.co.jp/>
ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告します。

単元株式数 100株

上場証券取引所 東京証券取引所プライム市場
福岡証券取引所

株主優待制度のご案内

株主の皆様の日頃のご支援にお応えするとともに当社株式への投資の魅力を高めていただくため、株主優待制度を実施しています。

● 割当基準日	3月31日
● 優待内容	
100株以上300株未満 所有の株主様	⇒ クオカード 1,000円分
300株以上500株未満 所有の株主様	⇒ クオカード 2,000円分
500株以上1,000株未満 所有の株主様	⇒ クオカード 3,000円分
1,000株以上10,000株未満 所有の株主様	⇒ クオカード 4,000円分
10,000株以上 所有の株主様	⇒ クオカード 10,000円分

当社ウェブサイトのIR情報のページに決算情報など最新の情報を配信しております。ぜひご利用ください。

<https://www.rix.co.jp/>

リックス株式会社

検索

